

👑

# JAPAN LEATHER AWARD 2012

## 麗しきおくりもの

～肌と肌が触れ合う、革だから伝えられることがある～

ニッポンでなめされた革を使用し、ニッポンの職人によって生み出された皮革製品。メイド・イン・ニッポンにこだわった数々の作品から、その年の最優秀賞を決める国内最大のレザーコンペティションが今年も開催された。

文 = 鈴木 聡、町田佳子、Discover Japan  
写真 = 西岡 潔、合田慎二、柳田由人、  
加藤史人、アラタジュン、木村真一

text: Satoshi Suzuki, Yoshiko Machida, Discover Japan  
photo: Kiyoshi Nishioka, Shinji Goda, Yoshito Yanagida,  
Fumito Kato, Jun Arata, Shinichi Kimura



2012年、  
ニッポンの皮革製品  
No.1が決定しました!

2012  
GRAND PRIX



### 11月03日に受賞作品発表!

毎年11月03日は「いいレザーの日」。この日、ベストレザーニストの発表とあわせて「Japan Leather Award」の表彰式が行われた。皮革親善大使である石田純一さんとともに壇上にあがった2012年の受賞者たち。多くの報道陣が集まり、注目度の高さが伺えた

六本木で行われた2次審査会の審査風景。プロ審査員による1次選考を通過した100点近い作品を一般審査員100名が審査する。誰もが真剣、1人平均2時間かけて行われた



#### 審査員長

東京藝術大学 美術学部 工芸科 教授

**菅野健一さん**

SUGANO Kenichi

総評

プロのつくり手からの応募が年々増え、皆さんの意気込みが感じられました。ここから一人ひとりの情熱が日本中に広がり、そして、ジャパンレザーの魅力の世界にもっともっと発信していきたいですね



GRAND PRIX

tokyo toff

**大河なぎささん**

素晴らしい賞をいただきありがとうございます。賞の名に恥じぬよう、体温を感じるものづくりを続けていきたいと思っております!



#### 審査員

株式会社 阪急阪神百貨店  
第3店舗グループ・商品室  
執行役員

**横山 勉さん**

株式会社 阪急阪神百貨店  
第3店舗グループ・商品室  
紳士服・スポーツ用品商品統括部長

**亀井哲也さん**

株式会社 阪急阪神百貨店  
第3店舗グループ・商品室  
婦人服飾品商品統括部長

**清水武将さん**

株式会社 阪急阪神百貨店  
第1店舗グループ  
婦人服飾品商品統括部  
ハンドバッグ・財布商品部バイヤー

**斎藤美和子さん**

株式会社 阪急阪神百貨店  
阪急うめだ本店  
趣味雑貨営業統括部バイヤー

**林 容さん**

株式会社 ロフト  
執行役員  
商品部長

**安藤公基さん**

株式会社 ロフト  
商品部プロダクツ担当

**細井潤治さん**

株式会社 ロフト  
渋谷営業部 渋谷商品部部长

**掛井賢治さん**

Fashionsnap.com編集長

**小湊千恵美さん**

株式会社 中川政七商店  
ブランドマネージャー

**細萱久美さん**

ノーノーイエス 株式会社  
代表取締役

**橋本太郎さん**

株式会社 樫出版社  
取締役

**松島 睦**

株式会社 樫出版社  
「ディスカバー・ジャパン」編集長

**高橋俊宏**

株式会社 樫出版社  
「日本の革」編集長

**濱島雄一郎**



## 革だからこそ伝えられる、想いをカタチに

革（レザー）は皮（スキン）から生まれる。長い人類の歴史の中で伝承されてきた技と叡智により、皮は革へと変化する。数々の工程を経て新たなカタチへと変わってゆく。私たちと同じ生物由来だから、ヒトとの親和性も高く、触れると吸い付くように馴染む。そんな皮革製品の特徴は、肌と肌が触れ合う感覚に近い。その肌は呼吸をし、時とともに変化をし、その人にとって世界で唯一の道具として育っていく。それが天然皮革を使用した製品の魅力。

そんな皮革製品を生み出すつくり手を発掘し、育て、さらにはニッポンの革の魅力を広く世に伝えることを目的にはじまったコンペティションが、「ジャパnレザーアワード」（社団法人日本皮革産業連合会主催）だ。5回目と

なる2012年は過去最多となる205点の応募作品が集まった。また、昨年に引き続きプロ審査員だけでなく、募集による1000人の消費者も審査、あわせてウェブ投票も行われた。

今年の募集テーマは「麗しきおくりもの」。この言葉からつくり手はどのように発想・着想をし、作品に仕上げてきたか。靴、バッグ、財布などの雑貨からレザーウェアまで。どれも触れて使う製品ばかり。想いを伝える最短距離である肌と肌の「触れ合い」。その感覚に近い革だからこそ表現できるカタチは、どのようなものになったのか。つくり手それぞれの想い、贈る人の想い、贈られる人の想い。そうした、さまざまな想いが込められた作品の中から、今年もグランプリが決定した。



1



2

1) プロ審査員による審査。品質だけでなく、市場の動向も含めた厳しい目線で行われた。2) 募集によって集まった一般審査員による審査。審査3日目には一般公開もされ、多くの人が来場した

## 小さな靴が紡ぐ 終わりになきストーリー

グランプリ受賞の報は、交差点を横断中にもたらされた。思わず「えー！」と大声を上げ、周囲から怪訝な顔を向けられたという。

「信じられませんでした。ほかの応募作品のレベルの高さに半分あきらめかけていたのに、まさかグランプリをいただける」とその時の心情を語る大河さん。2012年のジャパンレザーアワード覇者は、実に謙虚だ。だがアトリエのカレンダーには納期がびっしりと書き込まれており、その実力は広く認められつつある。生産に営業に忙しい日々を送るが「仕事が一番のストレス解消法。ありがたいの一言です」とグランプリ受賞者らしい頼もしい言葉を聞かせてくれた。

そんな大河さん、実は革と出合うまでには紆余曲折があった。美術大学でインテリアや建築を学び、某小売企業に入社。販促物の企画や店舗レイアウトなどを担当した後、フリーのインテリアデザイナーとして数年間めまぐるしく働いた。'07年夏、心身を癒すべく取った長期休暇がターニングポイントになった。「余裕ある時間を使って、これまでできなかったことをすべてやろう」と決め、「やることリスト」を作成。映画を観たり友だちと遊んだり、着々とリストを消化していく中、最後に残ったのが「自分の足に合った革靴を買う」だった。

「オーダーメイドができる靴屋さんを探している過程で靴学校の存在に気づいたんです。そう、自分でつくってみようと思いましたが」

善は急げとばかり大河さんは職業訓練校に入校。ここで初めて革と本格的に向き合い、一年の授業で靴づくりの基礎を固めた。靴メーカー勤務を経て、革職人やクリエーターを支援する「浅草ものづくり工房」を拠点に、自分らしいものづくりを模索する日々がはじまった。

「それまでの仕事と違ったのは、独立した職人としてすべての責任を負おうということ。大変ではありますが、その分やりがいも大きい」

そして'10年4月に「tokyo shoes」を立ち上げ、ピアスやキーケース、ブーツなど様々な皮革製品を手掛けてきた。ブランド名は「東京のオシャレさん」という意味。その由来を聞くと、興味深い言葉が返ってきた。

「私は普通のコトしかできません。だから周囲の流行に敏感な人たちに刺激をもらって、ものづくりに励もうと思ったんです。彼ら、東京のオシャレさん、たちのおかげという意味を込めています」

「普通のコトしかできない」——レザーアワードグランプリにはおよそ似つかわしくない言葉だが、実はうなずけなくもない。誤解を恐れずに言えば、大河さんの作品はごく普通の発想・技術から生まれている。ただし、それは作品としての凡庸さを意味しない。我々が見過しがちな「普通の大切さ」を丁寧にすくいあげ、どこにもないカタチをつくっているのだ。



1) 最初期に手掛けたブーツ。思い入れのある一品。2) 革のピアスは存在感がありながら軽く、着け心地は抜群。3) 作業の傍ら革教室も主宰し、生徒さんとともに革小物などを制作。いつもはひとりの作業なためリフレッシュの場

JAPAN  
LEATHER  
AWARD  
2012

グランプリ

tokyo toff

大河なぎささん

OHKAWA Nagisa

住所：東京都台東区駒形2-3-5-103

Tel：03-6802-8827

www.tokyotoff.com

選評

贈りものにぜひ使ってみたい。／エコレザーにふさわしい。／ファーストシューズにとっても良いと思う。／子どもができたなら履かせたい！／こんなプレゼントいただけたら涙ものですね。





## 「shoes album "0"」

手に収まる可憐な姿は、見ているだけで思わず顔がほころぶ。実際、大河さんにとっては大切な子ども。まるで赤ちゃんを抱くようにやさしく手にのせてみせる

の子どもにも贈るファーストシューズとして。贈り物という想いを届ける習慣がある限り、場所と時間を変えながら連続と受け継がれていく作品だ。ちなみに、「shoes album」とともに歳を重ねてきた子どもからシューズの感想を聞くことが大河さんの夢のひとつ。「それまでものづくりはやめられませんか」と笑う。

グランプリ受賞後、長年過ごした浅草ものづくり工房を出て自らのアトリエを構えた。職人・クリエイターとして真に自立し、第2ステージを歩んでいく大河さん。それでも、「思いやりあるものづくり」という信念は変わらない。そして、そのためには革という相棒が欠かせないという。

「体温を感じる商品をつくり続けたい。その点、革はどの素材よりも有機的で、肌にな

じむ。それに生きている素材だから、人とともに変化していく。『shoes album "0"』も革なくしては生まれなかったと思います」

同シリーズ内では1歳用シューズも制作・販売。そこで用いられている革は牛やヤギなどで、0歳用に比べちょっとぴりおとなの表情を見せる。今後は「七五三」に合わせてそれぞれの歳用のシューズ制作も視野に入れており、どのような革やデザインで年齢を表現するかが注目だ。

革の長所とコンセプトの完全な一致。贈り物としての価値。本作の魅力を挙げれば尽きないが、もつともふさわしい言葉がある。今年のレザーアワードのテーマだ。

「麗しきおくりもの  
肌と肌が触れ合う、革だから  
伝えられることがある」



1



2

1) オリジナルボックスに収納された姿。左は1歳シューズ用ボックスで少し大きい。2) 終始笑顔を決やさない大河さん。手掛ける作品同様に温かみある人柄が印象的だ



2



3



1

1) 使い慣れたミシンで滑り止めを縫い付けていく。手さばきは迅速かつムダがない。2) ワンポイントとなるレースが、シューズの無垢な雰囲気を演出する。3) アッパーとベロ部分を手縫い。この手作り感が作品のキモ

## つくり手の思いと革の温かみが 可憐な靴に血を通わせる

大いに喜ばれた。こうした経  
験を積み重ねながらデザイン  
や素材をブラッシュアップし、  
今回の受賞に結実した。出発  
点はあくまで「お祝いしたい」、  
「思い出に残るものを贈りた  
い」という素朴な、しかし人  
として何よりも大切な思いや  
りなのだ。

それを証するように、  
「shoes album "0"」にはこま  
やかな心遣いが散りばめられ  
ている。使用する革はエコレ  
ザーやタンニンなめしの国産  
ピッグスキンで、赤ちゃんの  
敏感な肌には直接触れても安心  
さらには靴底には滑り止めと  
して革の裏地を貼った。一枚  
革をモカシン製法でつくりあ  
げたシンプルな構造で、やわ  
らかな革が小さな足をやさし  
く包む。レースをあしらった、  
角のない心温まるデザインも  
魅力的だ。そのすべてが大河  
さんの手によるもの。「満足  
するまでどこまでも突き詰め  
ちやうんです」という言葉通  
り、妥協なきこだわりが随所  
に見られる。

また、靴を収納するオリジ

ナルボックスにも大河さんの  
想いが表れる。ボックス型のボ  
ックスを開けば、右側に靴、  
左側にフォトフレームがあり、  
靴を履いた赤ちゃんの写真を  
収めることができる。文字通  
り、「靴のアルバム」なのだ。  
「サイズ的にこの靴を履ける  
のは生後3カ月くらいまで。  
その後はボックスに収納し写  
真とともに本棚に飾っていた  
だけ、いつまでも親子の絆と  
原点を感じてもらえればうれ  
しいですね」

親も子も歳を重ねていく。  
折にふれ飾られた靴と写真を  
見る度に、子どもは親の愛情  
を再認識し、感謝を新たにす  
ることだろう。親はまた、子  
どもの確かな成長とこれまで  
ともにした豊かな時間に思い  
をめぐらせることだろう。小  
さな靴に込められる想いは、  
歳月とともにふくらんでいく。  
贈り物としても本作の命は  
長い。出産した友人へのプレ  
ゼントとして。そして子ども  
が大きくなったときに親が贈  
る思い出の品として。やがて  
は子どもが親になるとき、そ



JAPAN  
LEATHER  
AWARD  
2012

婦人靴部門賞



「w s p」

アッパーと筒に使われた2種類の革がデザイン面でも好アクセントに。ソールは滑りにくい素材を使い、低めのヒールで転倒予防策も十分

NO. 03

## 雪国に映えるレザーブーツ

「止むことのない雪の中、初めて長靴が必要になりました。既製品はゴム製ばかりだったので、大好きな革でブーツをつくってみよう」と。業務の合間、先輩たちの協力を得ながら制作に取り組んだ。ポイントには、革の使い分け。つま先から踵にかけては水や汚れに強いガラス張り革を使用し、筒部分はやわらかな革で履き心地を高めた。機能性だけでなく、自ら染色したダークブラウンの色合いや凛とした立ち姿など、ファッションアイテムとしての完成度も高い。「冬が少し楽しみになりました」と渡辺さんは笑った。

宮城興業

渡辺 繭子さん

WATANABE Mayuko

—

住所：山形県南陽市宮内2200  
Tel：0238-47-3155  
www.miyagikogyo.co.jp

選評

オーセンティックでありながら、現代女性の強さが感じられるマニッシュさ。コンセプトも明確。ハードとソフトのマッチングが良い。女性らしさと男性っぽさのバランスが好きです。

1) 普段はソール付けを担当。「いろいろな技を学びたい」と意欲は旺盛だ。2) 宮城興業の代名詞・グッドイヤーウェルト。本作ももちろんグッドイヤー。3) 最新の設備が整う工場。渡辺さんをはじめ多くの若手職人が修行に励む



3



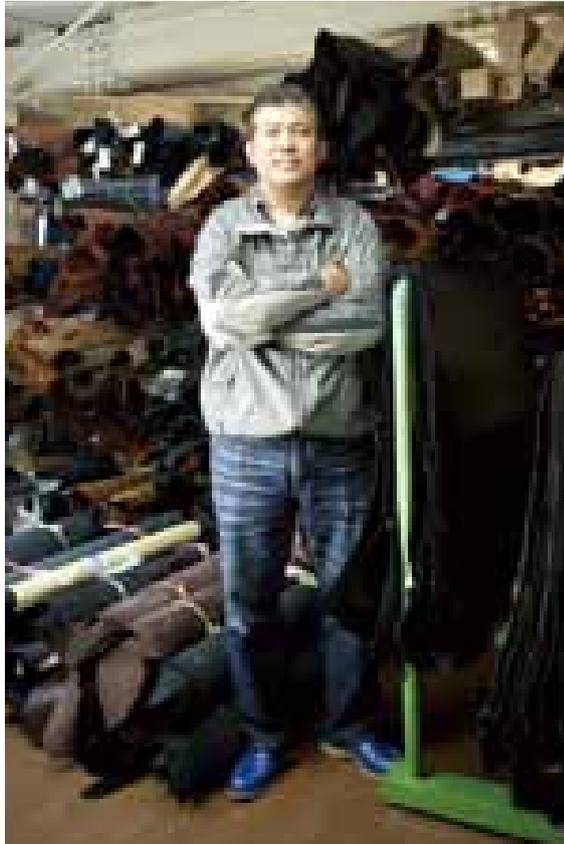
2



1

JAPAN  
LEATHER  
AWARD  
2012

紳士靴部門賞



### 「スコッチグレイン スパイダー」

端材の組み合わせ  
ながら統一感のあ  
るデザイン。ステ  
ッチや革片の境目  
がアクセントに。  
東京スカイツリー  
タウン・ソラマチ  
店でのみ取り扱い



NO. 02

ヒロカワ製靴

廣川雅一さん

HIROKAWA Masakazu

住所：東京都墨田区堤通1-12-11  
Tel：03-3610-3737  
www.scotchgrain.co.jp

選評

時代のコンセプトにマッチしている。シワの部分がすごく良いです。切りかえしのデザインがいい。それぞれの色合いが織りなす雰囲気がおもしろいです。

## たかが端材、されど端材の一点モノ

グッドイヤーウェルト製法で知られるブランド「スコッチグレイン」を手掛けるヒロカワ製靴。日々の靴づくりで生じる革の端材などをアップパールのパーツとして活用したのが本作だ。「革は大切な素材。ひとつとして無駄にしたいなかった」という思いから廣川社長が自ら発案した。手間はかかる。パーツ数は通常の3倍、裁断や製甲に費やす時間は10倍以上。だが形状や質感の異なる革片の組み合わせは、オンリーワンのデザインを生んだ。もちろん製法はグッドイヤーで、耐久性も折り紙つき。「履くうちにそれぞれの革片が異なる色みへ変化していく点も、この靴ならではの楽しみ方ですね」。

- 1) 廣川社長自ら裁断に当たる。パーツが多いため革には展開図との相番を振る。2) ビットなめしの革は、ネック部分も強靱。通常避けるシワもスパイダーでは味に。3) 一足38パーツにも及ぶアップパーを組み立てていく



3



2



1

JAPAN  
LEATHER  
AWARD  
2012

レディースバッグ部門賞



「KATANO KABAN お寿司」

良い素材をシンプルに美味しくいただく「お寿司」の名前通り、仕様や飾りを極限まで減らし、革素材の良さをダイレクトに伝える

NO. 05

## 無駄を削ぎ落とした上で遊び心を

スナップを外すと敷物になるバッグ、ダックスフンドとダレスバッグを掛けた短丈のダックスダレス。次から次へと出てくるアイデアあふれる作品たち。「世の中にないのをつくりたい」。それが交野カバンの原点。今回の作品も、革の良さを最大限に引き出した高い完成度をもった上で、取っ手に紙袋をよくみるビニール製のハンドルを使用している。「どこかに遊びが入っていないとおもしろくない」と中村さん。ものづくりへの思いを同じくする同社の社長との会話からアイデアが生まれ、翌日には試作品ができていくことも多いとか。熱が冷めないうちにカタチに、自社工場をもつ強みを活かす。



シーソー(交野カバン)

中村保義さん

NAKAMURA Yasuyoshi

—

住所：大阪府寝屋川市打上元町9-40

Tel：072-380-5889

<http://katanokaban.jp>

選評

シンプルが一番良い。／革の色がどう変化していくか、見てみたいのでちょっとほしいです。／持ち手が斬新！／持ち手と本体のバランスが良い。うっすら入った押しも良い。

1) 昨年夏に自社工場を設立。職人が一つひとつ、その手でつくり上げていく。2) 「ヌメ革はちょっとした手の油でもシミになるので制作時に神経を使いました」。3) ハンドルは洋服や経年変化にあわせて変えられるように数色を用意



3



2



1

JAPAN  
LEATHER  
AWARD  
2012

メンズバッグ部門賞



「ネオブレレザー  
ワンショルダーバッグ」

革独自の温かな質  
感に、ネオブレ  
ンならではの立体的  
で美しいシルエット。  
メンズ商品だが、その丸みを帯  
びた佇まいは女性  
にもよく映える



NO.04

ナオトサトウ

佐藤直人さん

SATOH Naoto

—

住所：埼玉県さいたま市大宮区上小町 1032

Tel：090-1761-9867

www.naotosatoh.jp

選評

とても美しい！／個性的なフォルムなのにしっとりした素材の  
せいで、とてもすんなり受け入れられました。／モードファッ  
ションに合いそうなデザイン。／裏地が丈夫そう。軽さが良い。

新素材との融合でネクストステージへ

本作は革の土台に「ネオブレ  
ン」というウエットスーツ  
用の素材を使用。「ネオブレ  
ン」はもともと身体を守る素材  
なのでクッション性と耐久性  
に優れる。裏地が不要なので  
軽量化も実現できました」と  
佐藤さん。革とは接着剤で張  
り合わせ、縫い代のない独自  
の縫製を施す。その結果、ブ  
ランドコンセプトである「立  
体感」や「エレガンス」も存  
分に表現された。

新たな取り組みだけに完成  
まで様々な壁があった。だが  
「革」という最高の素材に最先  
端の技術や素材を融合するこ  
とで新しいカタチは生まれ  
る」という強い信念のもと、  
開発に当たること一年。その  
信念の正しさを証明した。



3



2



1

1) 革とネオブレンを貼り合わせる瞬間。プレスする際の温度も通常のバッグとは異なる。2) 協力工場や職人のもとへ何度も足を運び作業に立ち会う。技術の探求に余念がない。3) 革とネオブレが融合した一枚

Web投票特別賞



NO. 09

ロックヴォーカリストに捧げる

「黒く染めあげられた馬革に、オールハンドステッチで制作しました。背中には魂の唄を赤いレザーと剣のカタチで表現。ステージに上がるたび、革ジャンのシボも深く刻まれて共にシンガーの歴史を刻んでくれることでしょうか」



Bobby Art Leather

照下 “Bobby” 稔さん

Tel : 080-6153-4072

<http://ameblo.jp/hey-bobby>

アマチュア部門賞



NO. 07

製靴してから  
柿渋とヒノキで  
再なめし

「足裏の凸凹までも精密に再現した木型を削り、360度フィットする靴をつくりました。その後、柿渋とヒノキを調合したなめし液に1カ月漬け、再なめしすることで、いつまでも型崩れせずエイジングする、日本の革だけがもつ麗しさを表現できたと思います」

三井造船  
二本真さん



NO. 08

青森に伝わる  
“想いを込める  
伝統刺繍”

「自分たちのため、また家族のためにと衣服に縫われてきた、青森に伝わるこぎん刺しという美しい模様を刺繍技法をデザインに取り入れました。そんな誰かのためを思って、一針一針縫われたこぎん刺しを麗しき贈り物として、靴に込めました」

エスヘレンサ靴学院  
中村郁代さん



審査員特別賞



NO. 12

みんなを笑顔にできる  
バブーシュ

「子どもの頃から好きだったチュールリップを豚革に描きました。家族が集まるリビングや玄関で可愛らしく咲いて、みんなを笑顔にできるかという思い企画しました。身体にもやさしいようにと肌にふれる内側はエコレザーを使用。足元からやさしく笑顔にするバブーシュです」



ナスタチウム

大澤美希子さん

住所：東京都台東区橋場1-36-2 浅草ものづくり工房303号室 Tel : 090-9433-9774  
<http://blog.ap.teacup.com/nasturtium>



NO. 11

自分の手を加えることで、  
特別感と愛着が生まれる

「自分でつくれるカードケースの制作キットです。素材にもこだわり、つくる楽しさと、使う楽しみも味わえるように経年変化を楽しめる革を選びました。一枚のパーツから一カ所を縫うだけでできる形で、平面から立体になる展開図のおもしろさも感じてもらいたと思います」



.URUKUST

土平恭栄さん

住所：東京都台東区小島2-9-10  
台東デザインナースビル103号  
Tel : 03-5809-3143 [www.urukust.com](http://www.urukust.com)



NO. 10

楽しみながらつくれて  
使って楽しい実用品

「テイクアウトできるコーヒーなどの紙コップフォルダーです。革という素材を楽しみながら理解してほしくて、ボタン付けができる方なら誰にでも組み立てられるキットとして設計しました。糸の色やボタンをかえて贈ってもよし、キットのまま贈っても喜ばれると思います」



リーガルコーポレーション

花田春臣さん

住所：千葉県浦安市日の出2-1-8  
Tel : 047-304-7122  
[www.regal.co.jp](http://www.regal.co.jp)

JAPAN  
LEATHER  
AWARD  
2012

雑貨部門賞



### 「キーコロネ」

手に収まる絶妙なサイズと使いやすさ、デザイン性を兼ね備えた新型キーケース。思わず触りたくなる革の艶も魅力的だ。鍵は4本まで収納可



NO.06

## 鍵を“くるむ”という新発想

「キーコロネ」という名前通り、鍵をコロネのように巻いてくるむ構造が斬新な本作。着想のきっかけは「貝」だという。「鍵は上が太く下は細い。ケースもそのカタチに合わせられないかと試行錯誤していたところ、巻貝をイメージしたらピッタリはまりました」と加藤さん。おもしろいのはアイデアだけでない。タンニンなめしの革、重厚感ある金具類、芯材周辺に施された手縫い——素材へのこだわりと高い技術が凝縮している。「恋人同士や家族間で、鍵はお互いをつなぐアイテム。だから、大事に思えるようなキーケースをつくりました」。鍵だけでなく、使う人の心もやさしく包んでくれそうだ。

革工房アバッリ

加藤光也さん

KATO Mitsuya

住所：東京都足立区島根2-20-12  
Tel：03-3859-9112  
<http://aballi.jp>

選評

目をひきそうな工夫が良い。／ファッションにも、取り入れてみたい商品。／おもしろいデザインです。／使ってみたいです。／プレゼントに喜ばれそうな印象。／他のものを傷つけずGood!

加藤さんはデザインから生産のすべてを手掛ける。1) 芯の上部は手縫いでのみ縫製可能。このひと手間が独自の形状を可能に。2) 漉きの角度は45度で正確無比。3) 革職人としての出世作「チワキヤリー」。斬新な発想は当時から



3



2



1

# 受賞作品や厳選の皮革製品に出会えるイベントを開催!

2012年12月12日～2013年2月27日

受賞作品の展示を行うほか、関連したイベントも。この季節は贈りものシーズンでもあるので、ぜひ参考に。



東京・渋谷

2013年2月16日(土)～27日(水)

渋谷ロフト

住所：東京都渋谷区宇田川町21-1  
開催場所：6階 ロフトフォーラム



兵庫・西宮

2013年1月23日(水)～29日(火)

西宮阪急

住所：兵庫県西宮市高松町14-1  
開催場所：4階 催場



大阪・梅田

2012年12月12日(水)～18日(火)

阪急うめだ本店

住所：大阪府大阪市北区角田町8-7  
開催場所：10階 うめだスーク 中央街区

## 第一線で活躍する、過去の受賞者たち

2008年からはじまった「Japan Leather Award」。グランプリをはじめ各賞を受賞された方は注目され、みな各方面で活躍中。



2009年受賞

No, No, Yes!

受賞作品をはじめ、革の新しい可能性に挑戦し続けるNo, No, Yes!。2012年はNYファッションウィークに参加するなどワールドワイドな活躍を見せている

Tel : 03-3408-2706  
www.nonoyes.com



2008年受賞

松岡手袋

手袋製造の中心地である香川県。この地で培われた歴史と新たな先端技術を結集した手袋「エルゴグリップ」。スポーツ業界から高く注目され愛用者も増加中

Tel : 0879-33-2090  
http://matsuoka-glove.co.jp



2011年受賞

靴工房MAMMA

革の集積地である兵庫県たつの市で真摯に靴づくりに向き合う菅野光広さん。受賞後、地元タンナーさんからの協力も増え、より進化した靴づくりを行っている

Tel : 0791-72-4303  
www13.plala.or.jp/kutu-mamma



2010年受賞

Naoto Satoh

2012年も見事受賞。百貨店からの別注、有名ブランドからデザインオーダーなど常に多忙。佐藤さん、アワードを機に革素材にすっかりと魅了された

Tel : 090-1761-9867  
www.naotosatoh.jp



## 受賞作品に触れて感じる ニッポンの皮革製品の魅力

### 「TIME & EFFORT」

ハイクラスなブランドショップが建ち並び、並木通りに面した店舗。1Fではオリジナルの作品や革素材の展示、2Fでは厳選された皮革製品の購入も可能だ

住所：東京都中央区銀座8-5-4  
銀座マジソンビル1・2F  
Tel：03-6274-6950  
営業時間：12:00～20:00  
土・日曜・祝日11:00～19:00  
<http://timeandeffort.jlia.or.jp>



どれも魅力的な2012年のレザーアワードグランプリ及び各部門賞作品たち。実際に見て、触れてみたいという方も多いはずだ。そんな声を受け、昨年よりはじまったのが受賞作品の一般展示。今年は昨年よりも会場が増え、東京2会場、大阪1会場、兵庫1会場となった。

そんな会場のうち、受賞作品発表となった11月03日（いいレザの日）の翌日から展示を行ったのが（本誌発行時は展示は終了しています）、「ジャパンレザーアワード」と同じく社団法人 日本皮革産業連合会が運営する「TIME & EFFORT」だ。ここは、革

ならでは、日本ならではのものづくりを、世界に発信することをコンセプトとして2012年8月に東京・銀座にオープンした、革のショールーム。ニッポンの革、また皮革製品の良さを、そしてニッポンのものづくりの精神を伝える場所として注目を集めている。

ショールームのクリエイティブディレクターを務めるのは、熊谷隆志氏。洗練された空間だけでなく、オリジナルレザーアイテム（非売品）も手掛け、革を通じたニッポンのものづくりの良さを新しい発想で展開している。

また、「TIME & EFFORT」では月に数回、皮革関連のイベントも開催している。レザーアイテムのお手入れ方法や靴の選び方など、革好きにとってはうれしい内容が盛りだくさんだ。

今後の受賞作品の展示予定は左ページに記した。近くに立ち寄った際にはぜひ、チェックしてみてください。

## メイド・イン・ニッポンの革を知る 日本皮革産業連合会 (JLIA) とは？

様々なものづくりの現場、様々な職人さんたちの心意気、そして皮革におけるメイド・イン・ニッポンの品質をサポートするのが、日本皮革産業連合会 (JLIA) だ。

### 皮革業界を横断するJLIAの活動



#### 銀座 革のショールーム 「TIME & EFFORT」

革に特化したショールームを東京は銀座にオープン。メイド・イン・ニッポンの皮革の良さ、ニッポンのものづくりの良さを発信していく



#### kids' leather programs 革を学ぼう! 革で遊ぼう!

見て、触れ、つくって、革を身近に感じてもらうイベントや教育プログラムを展開し、素材としての皮革の啓蒙と次世代の人材育成につなげる



#### 日本エコレザーの認定

製造・販売・輸送・再利用など厳しい基準をクリアした皮革にたいして「エコレザー」を認定する。またその認知度を上げる取り組みを行う



#### Japan Leather Award Awardの開催

ファッション産業である皮革産業に、その時々消費者ニーズに即応できる、新たな“発想・着想”をもつ人材を育成することを目的に開催

その他にも国産皮革・製品をサポートする取り組み多数

「Japan Leather Award」を主催する日本皮革産業連合会 (JLIA) とは、日本の皮革業界が横断的に参加する組織だ。ひとつの皮革製品ができるには様々な人、業界が関わっている。そんな原材料から流通、製品製造にいたる26団体、約2,000社がJLIAには加盟。各業界が日本の皮革業界の活性化のため、技術開発、各種施策の調整を行うことで、より品質

の高い皮革製品づくりをサポートしているのだ。また「Japan Leather Award」のように次世代の皮革業界の担い手たちの育成、さらには消費者である私たちにとっても有益な活動を行っているので、Webなどからその活動に注目してみよう。メイド・イン・ニッポンの傑作レザープロダクトが誕生する背景には、こうした多くの人々の活動があるのだ。



社団法人 日本皮革産業連合会 (JLIA)

Japan leather and Leather goods Industries Association

[www.jlia.or.jp](http://www.jlia.or.jp)